

ふれあい放水路

2014 平成26年
ふれあい放水路
vol. 207
Izumo Office of river
Chugoku Regional
Development Bureau

おるる ひこくん ひめちゃん

お知らせ

斐伊川放水路への分流について 斐伊川放水路と尾原ダムの効果



新年のご挨拶



平成二十六年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平素より、斐伊川放水路事業の推進にあたり、地域の皆様をはじめ、関係の方々の多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
おかげ様で昨年の6月16日をもちまして、斐伊川放水路が無事竣工を迎えることができました。地元の皆様をはじめ関係者や多くの方々の努力が形となった記念すべき年となりました。
斐伊川放水路の竣工後、昨年9月3日から4日の出水により、初めて放水路への分流を行いました。また、10月24日から26日の出水でも、竣工後2度目の分流を行いました。2度の分流のうち、出水規模の大きかった9月の分流において、尾原ダム、斐伊川放水路の運用により、斐伊川本川下流の灘分地点では約80cm、宍道湖湖心では約20cm水位を低減させることができ、運用による効果が皆様の目に見えるかたちで現れることとなりました。
また、平成23年8月から工事開始した松江市内の大橋川改修についても、地元関係者の皆様との協議を重ね、順次整備を進めており治水3点セットの早期完成に向けて、引き続き努めてまいります。
斐伊川放水路事業は、堤防工事以外の残工事や工事の影響による家屋等への補償について引き続き実施していきますので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

国土交通省出雲河川事務所長 館 健一郎

朝日と分流堰

神戸川堤防一斉点検の結果について

出雲河川事務所では毎年出水期前と台風期前の計2回、堤防の損傷や護岸・樋門などの異常がないかを確認するため、事務所職員らによる堤防一斉点検を実施しています。
今年度も出水期前となる4月19日と台風期前となる9月18日に実施しました。



1班:取水水路草繁茂



4班:防草シート剥離



2班:土砂流出

●点検結果

点検の結果、異常があると認められた箇所は、4月と9月の点検でそれぞれ約90件ありました(重複している内容あり)。早急な対応が必要なものはありませんでしたので、経年変化等を確認し、必要に応じて修繕も行っていきます。

●補修実績

出水期前の4月の点検の際に堤防法面の縦方向に浸食を受けた箇所が発見されました。降雨等により、浸食範囲が拡大することを防ぐため、植生土のうを設置しました。



法面浸食状況



植生土のう設置

放水路に関連する工事の実施情報

- 斐伊川放水路滝谷地区整備外工事 H25. 3.26~H26. 3.31 ㈱豊洋
- 神戸川維持工事 H25. 4. 1~H26. 3.31 出雲土建㈱
- 斐伊川放水路整備外工事 H25.10.19~H26. 3.31 ㈱松江土建
- 斐伊川放水路開削部整備外工事 H25.10.12~H26. 2.28 出雲土建㈱
- 斐伊川放水路残土処理場整備外工事 H25. 6.29~H26. 3.31 ㈱中筋組
- 斐伊川放水路拡幅部用地管理外工事 H25.12.12~H26. 3.31 大和建设㈱



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶町有原町5-1 tel (0853) 21-1850 fax (0853) 22-7829
E-mail: izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

斐伊川放水路への 分流について

出水時の概要

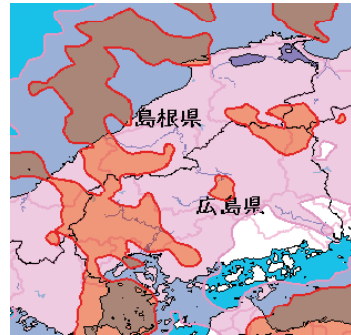
斐伊川放水路は平成25年6月16日に竣工し、運用を始めています。これまでに、分流堰地点(出雲市大津町)での流量が毎秒500m³を超える出水が、9月と10月の2回あり、分流堰を操作し、斐伊川放水路へ分流しました。

初の分流となった9月の出水では、秋雨前線により9月3日朝から4日昼頃にかけて長時間にわたり雨が降り続け、斐伊川流域平均で総雨量は147mmに達しました。これにより、斐伊川中流の上島地点(出雲市上島町)の最大流量は毎秒約1,250m³となりました。

斐伊川放水路の運用状況(9月出水)

天気概要

中国地方では、西日本に停滞する前線に向かって、南から流れ込む暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、島根県東部では9月3日から4日にかけて、激しい雨が長時間にわたり降り続きました。



等雨量曲線凡例
— 200mm
— 150mm

〈累加時刻〉平成25年
 9月3日 0:00~9月4日 24:00
 〈累加時間〉48時間

分流堰の操作について

●9月4日午前5時30分

斐伊川の流量が増え、分流堰地点で毎秒約400m³を超えたため、斐伊川放水路へ分流(自然越流)が始まりました。

●同午前6時50分

さらに斐伊川本川の流量が増加し、分流堰地点で毎秒500m³に達したので、分流堰の操作を開始し、起伏ゲートを順次倒しました。

●9月5日午前4時10分

斐伊川本川の流量が分流堰地点で毎秒400m³を下回ったため、起伏ゲートを起こし、斐伊川放水路への分流を終了させました。

分流経緯	日時	流量
分流開始	9月4日午前5時30分	約400m ³ /s
ゲート倒伏操作開始	9月4日午前6時50分	500m ³ /s
ゲート起立操作完了	9月5日午前4時10分	400m ³ /s以下

平常時(斐伊川放水路分流堰)



分流時(流量ピーク時)
(H25.9.4午後1時30分撮影)



平常時(放水路開削部)



分流時(流量ピーク時)
(H25.9.4午後1時30分撮影)

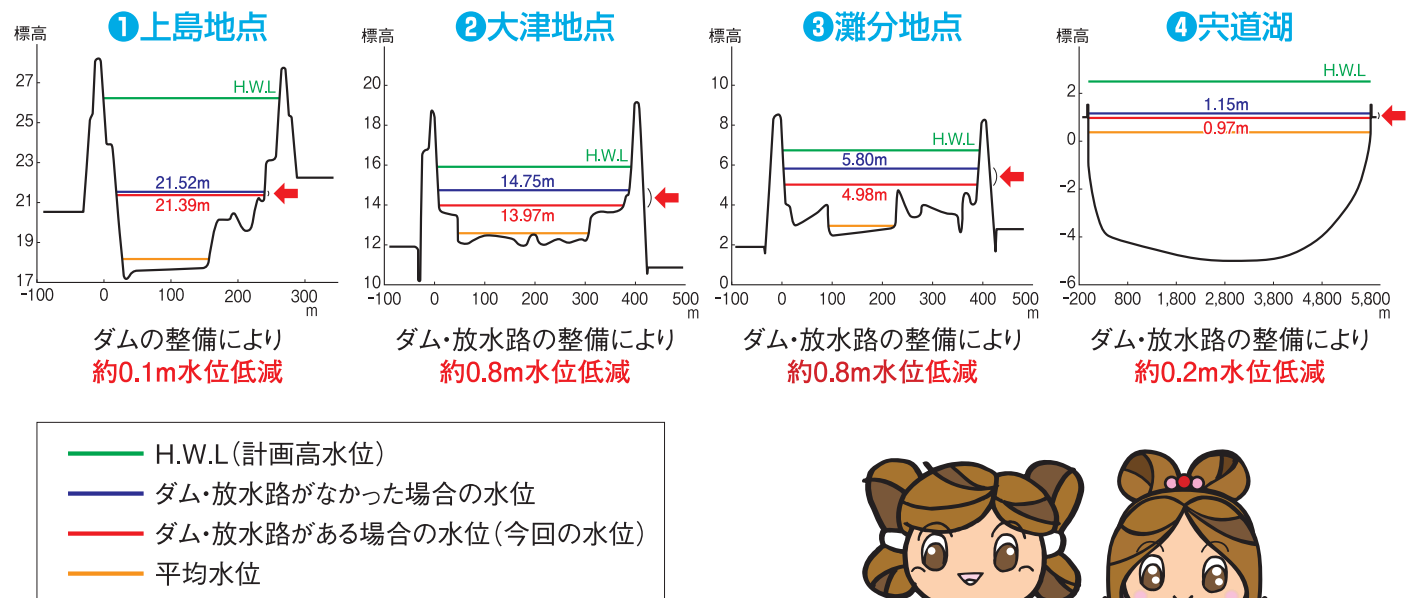
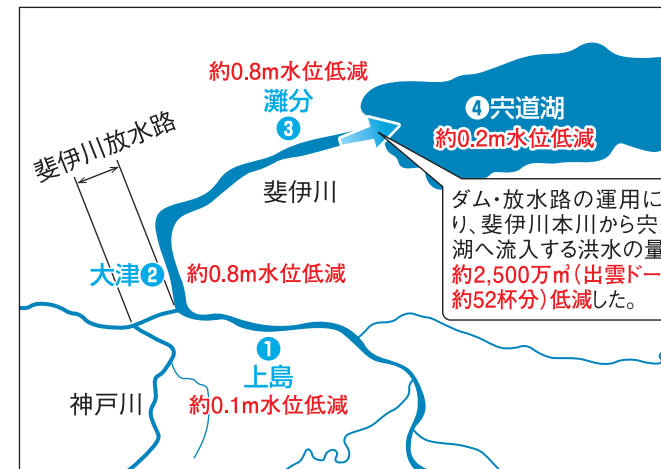


斐伊川放水路と尾原ダムの効果

○平成25年9月の出水で、斐伊川本川上島地点(下図の①の位置)の最大流量毎秒約1,250m³のうち、斐伊川放水路へ毎秒約550m³分流しました。

○斐伊川放水路、尾原ダムの運用により、斐伊川本川下流及び宍道湖の水位を低減しました。また、斐伊川本川下流の灘分地点(下図の③の位置)では、水防団が出勤する基準となる「はん濫注意水位」の継続時間が18時間から14時間となり、危険度が増す水位が高い状態の継続時間を短縮しました。

〈流域の水位低減効果〉



※速報値であり今後変更になる場合があります。
 ※ダム・放水路がなかった場合の水位は計算による推定値です。

